取組実績の概要

本取組は、代表校である関西国際大学を中心として、専門分野が近い、中小規模大学の淑徳大学、北陸学院大学とくらしき作陽大学の４大学が連携して教育改革を推進した活動である。

■本取組の目的など

目的：主体的な学び（予測不可能な社会において、絶えず学び続け、活動）ができる学生の育成
期待される学修成果：問題解決能力、コミュニケーション能力、社会性、自律性、一般教養など

■本取組の流れ

◇1 年目（2012 年度）各校で連携事業を促進するための組織体制の整備及び DP 等の見直し
◇2 年目（2013 年度）各校から代表校に教員が出向しルーブリック開発や FD 研修企画。外部評価
◇3 年目（2014 年度）出向教員が本務校に戻り、取組を推進
◇4 年目（2015 年度）AL 研究、HIP 学生交流会、IR 研究等を部会で実施。外部評価
◇5 年目（2016 年度）部会の継続と一般社団法人学修評価・教育開発協議会の設立、成果報告
※5 年間を通して、各校で教育方法の改善・充実（AL 推進、ルーブリック活用など）

■本取組の三つの柱ごとの取組の成果

①ハイ・インパクト・プラクティス（HIP）の充実＝教育方法の改善
・各校でアクティブラーニング（AL）型授業を導入（2016 年度導入率 76%、初年度より+28%）
・教室外体験型プログラムを充実した（学生参加率 初年度より+57%）
・連携取組として、アクティブラーニング型授業と教室外プログラムの「要件」を作成
＜気づき＞
・大講義クラスでのアクティブラーニングやディープ・アクティブラーニングの促進が必要。
・学生の自己効力感の醸成するために HIP を継続・反復・伝達できる環境づくりが重要。

②学修成果を可視化するための評価方法の開発
・『多様性理解』『チームワーク』『学修成果の統合』のコモンルーブリックを協働して開発
・ルーブリックを普及促進（教室外プログラムへの導入率 初年度より+69%）
・入学時の基礎能力測定（大学入試センターモニター調査）を実施し、論理的思考テスト開発
・教員間でのキャリブレーション（すり合わせ）を実施
＜気づき＞
・チームで新たにルーブリックを開発すると FD 効果（目標、教授方法、評価の視点）が高まる。

③教学マネジメントの確立
・授業外学習時間が増加（初年度より+18%）
・学長を中心とする教育改革マネジメント体制を整備するとともに、3 方針の見直し、策定を実施
・組織的な教育の実施とそれを改善するための FD 研修会の実施
・学修行動調査・教員調査の実施とテストや成績等の IR データを活用した学生支援や教育改善
・ＩＲシステムの開発と将来を見据え、クラウド化を準備
・アセスメント・ポリシーを検討し、策定
＜気づき＞
・評価方法自体のアセスメントが重要であり、アセスメント・ポリシーは見直しを行う必要がある。
・評価方法を新たに開発するとともに、IR 機能を用いて学生支援への活用方法を検討していく必要がある。

■取組の継続・展開

・一般社団法人学修評価・教育開発協議会では、連携取組の成果を継承し、各種調査、テスト及び IR データの分析方法の開発を継続して実施するとともに、新たな教育プログラム及び評価方法の開発行っていく。

（代表校名：関西国際大学、取組名称：主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築）